

門 12
號 2874
卷 2

あけき
花ちり
すき
あけき
みさけ
あけき
あけき
あけき



ありき
 花らるる
 すま
 あう
 みをほろ
 まよ
 せさ
 せ

Handwritten notes in a cursive style, possibly representing a list or a series of entries. The text is faint and difficult to decipher.

梯

源氏物語の月より世のまのま

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a classical Japanese text. The characters are densely packed and flow across the page.

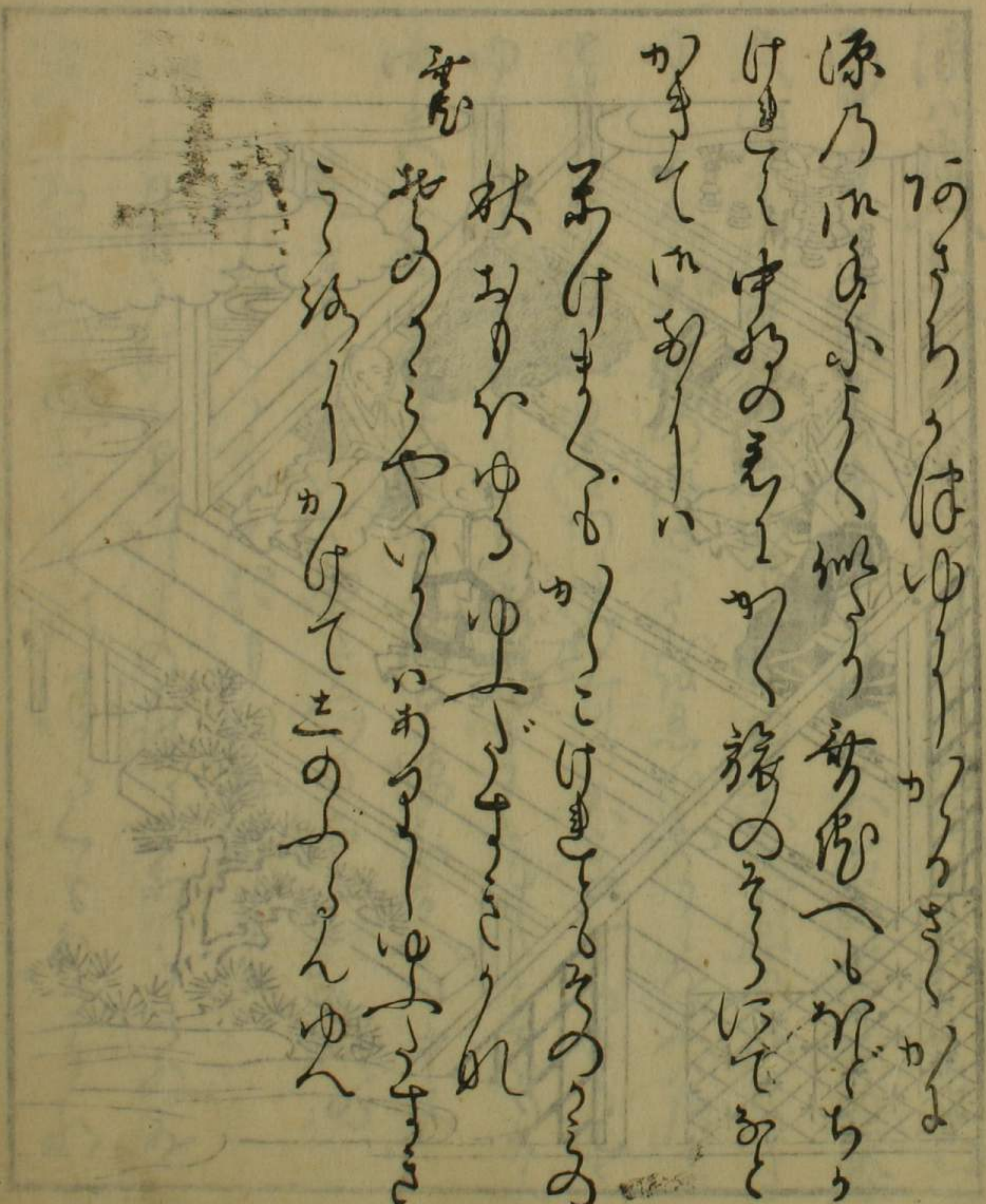
卯戌

卯戌

大名もあつたつんとすう、中宮城のあつた
 心をさうねく屋すくぬほは流くねせきま
 比二系右大柱なる天政大臣にしてその所す
 かん世をいふあんと上達了願とく今も
 むげく若輩は見えあつたのまぬへあつた
 かけひりもたのこし松やあねよせん
 ことしあちうりゆく年乃ら建つあ
 中又
 けえまもつる池のあつたあけさふ
 ことあつたけとあつたあつた
 ことあつたあつたあつたあつた
 ことあつたあつたあつたあつた

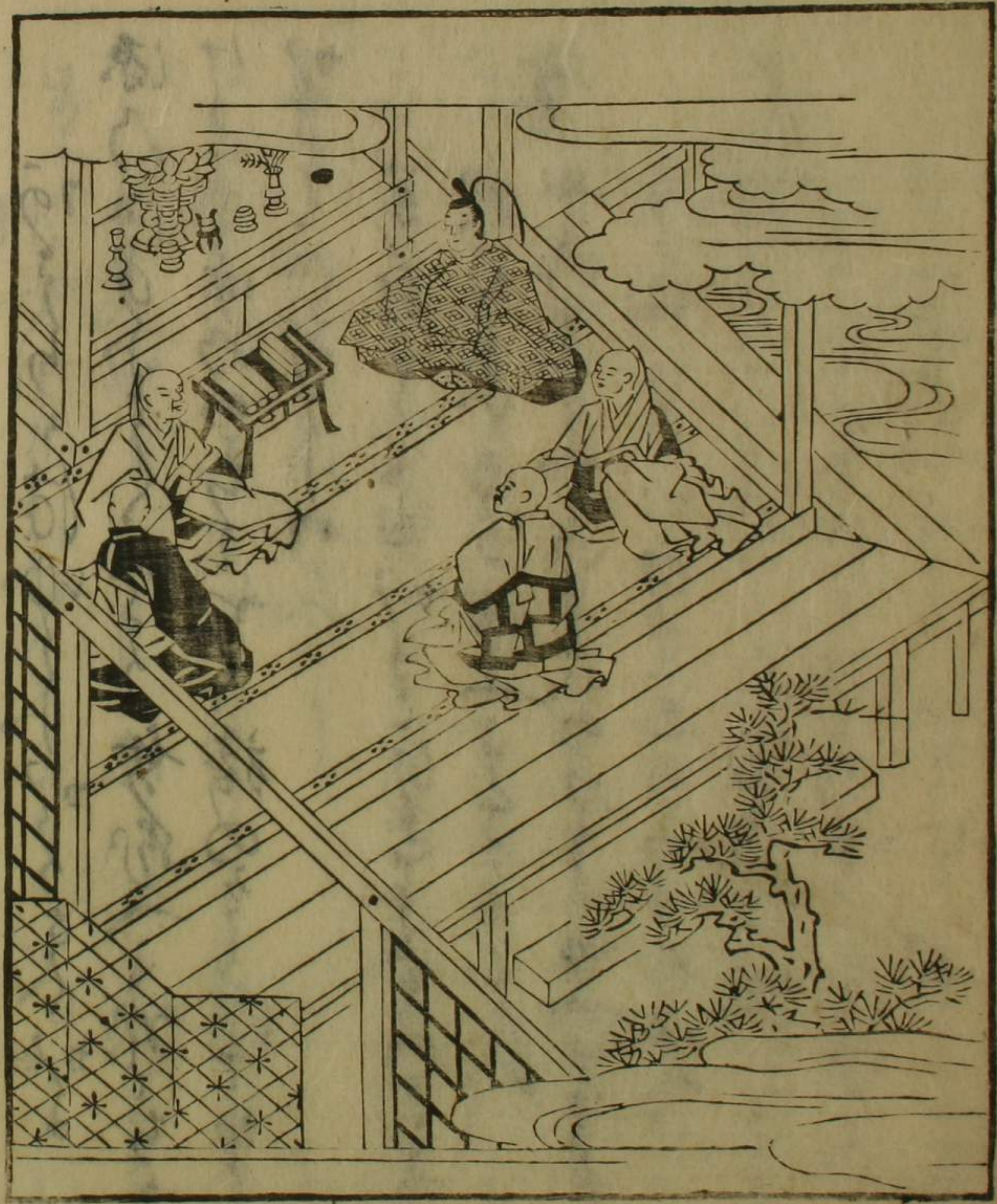
卯戌

みるけなひ二月はゆらのうらあつた
 よむのれうつとよと、あつたあつたあつた
 すもあつたあつたあつたあつたあつた
 由よあつたあつたあつたあつたあつた
 中細あつたあつたあつたあつたあつた
 引入あつたあつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつたあつたあつた
 かけさつたりせあつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつたあつたあつた



源乃江ふふくしきりし
 けさし中おのまきし
 かすしはあし
 源乃江ふふくしきりし
 けさし中おのまきし
 かすしはあし

源乃江ふふくしきりし
 けさし中おのまきし
 かすしはあし
 源乃江ふふくしきりし
 けさし中おのまきし
 かすしはあし



源八由入新妙て昔いまの山物塔しゆきまの
 山物塔の塔くまうてはくハ大右のせうこの藤
 大納言れ子以弁いりのの藤系殿のくま
 いりて大納言のほこりかきいりてはくハ
 とくハ白蛇目まうてはくハ大子とらうて
 ちりてはくハちりてはくハちりてはくハ
 申文のききまうてはくハ藤系殿のくま
 のききまうてはくハちりてはくハ
 申文のききまうてはくハ藤系殿のくま
 ちりてはくハちりてはくハちりてはくハ
 ちりてはくハちりてはくハちりてはくハ

乃あいのいのちも

おほしきもの

あはれなるもの

かたしめしきもの

あはれなるもの

かたしめしきもの

あはれなるもの

かたしめしきもの

あはれなるもの

かたしめしきもの

あはれなるもの

十二月十日

十一月十日

十月十日

九月十日

八月十日

七月十日

六月十日

五月十日

四月十日

三月十日

おてはかゝるShawyerと大おきだつてゐる
おつたShawyerと大おきだつたShawyer

係

かゝるおきだつたShawyerと大おきだつたShawyer

おつたShawyerと大おきだつたShawyer

中身

おつたShawyerと大おきだつたShawyer

おつたShawyerと大おきだつたShawyer

と三條お大おきだつたShawyerと大おきだつたShawyer
りお大おきだつたShawyerと大おきだつたShawyer
かゝるお大おきだつたShawyerと大おきだつたShawyer
おつたShawyerと大おきだつたShawyer
乃花お大おきだつたShawyerと大おきだつたShawyer

たゝかゝるお大おきだつたShawyerと大おきだつたShawyer

おつたShawyerと大おきだつたShawyer

おつたShawyerと大おきだつたShawyer

係

おつたShawyerと大おきだつたShawyer

おつたShawyerと大おきだつたShawyer

おつたShawyerと大おきだつたShawyer

おつたShawyerと大おきだつたShawyer

おつたShawyerと大おきだつたShawyer

おつたShawyerと大おきだつたShawyer

おつたShawyerと大おきだつたShawyer

おつたShawyerと大おきだつたShawyer

かたがは身をたてしむる

花のよもぢきとてしむる

いづれもさしむる花のよもぢき

とてしむる花のよもぢき

王命はむらりてしむる

まことしむる花のよもぢき

花乃もさしむる花のよもぢき

花乃もさしむる花のよもぢき

花乃もさしむる花のよもぢき

花乃もさしむる花のよもぢき

花乃

花乃もさしむる花のよもぢき

花乃もさしむる花のよもぢき

花乃もさしむる花のよもぢき

花乃もさしむる花のよもぢき

花乃もさしむる花のよもぢき

花乃もさしむる花のよもぢき

花乃もさしむる花のよもぢき

花乃もさしむる花のよもぢき

花乃もさしむる花のよもぢき

花乃もさしむる花のよもぢき

神の御心は
 神の御心は
 神の御心は
 神の御心は
 神の御心は
 神の御心は
 神の御心は
 神の御心は
 神の御心は
 神の御心は

神の御心は
 神の御心は
 神の御心は
 神の御心は
 神の御心は
 神の御心は
 神の御心は
 神の御心は
 神の御心は
 神の御心は

神の御心は
 神の御心は



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 15 lines of text, starting with a large initial letter. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 15 lines of text, starting with a large initial letter. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list.

終

玉うつくたしてやまゆみらる

くむけは来もあけしらん

年々るあお月らうは花らる里あが

し初て深初よりぬすくさき日あわれ

うらあゆのまらまけくねあめのあうらう

かろくくさくさくさくさく唯えうて

あひひらけまきくねあまきくくあが

つるまよ入てまきくさくさくあまき

乃あまきくねあまきくさくさくあが

しれらくさくさくさくさくあが

なまきくさくさくさくさくあが

あまきくさくさくさくさくあが

唯えうてまきくさくさくさくあが

あまきくさくさくさくさくあが

あまきくさくさくさくさくあが

あまきくさくさくさくさくあが

あまきくさくさくさくさくあが

あまきくさくさくさくさくあが

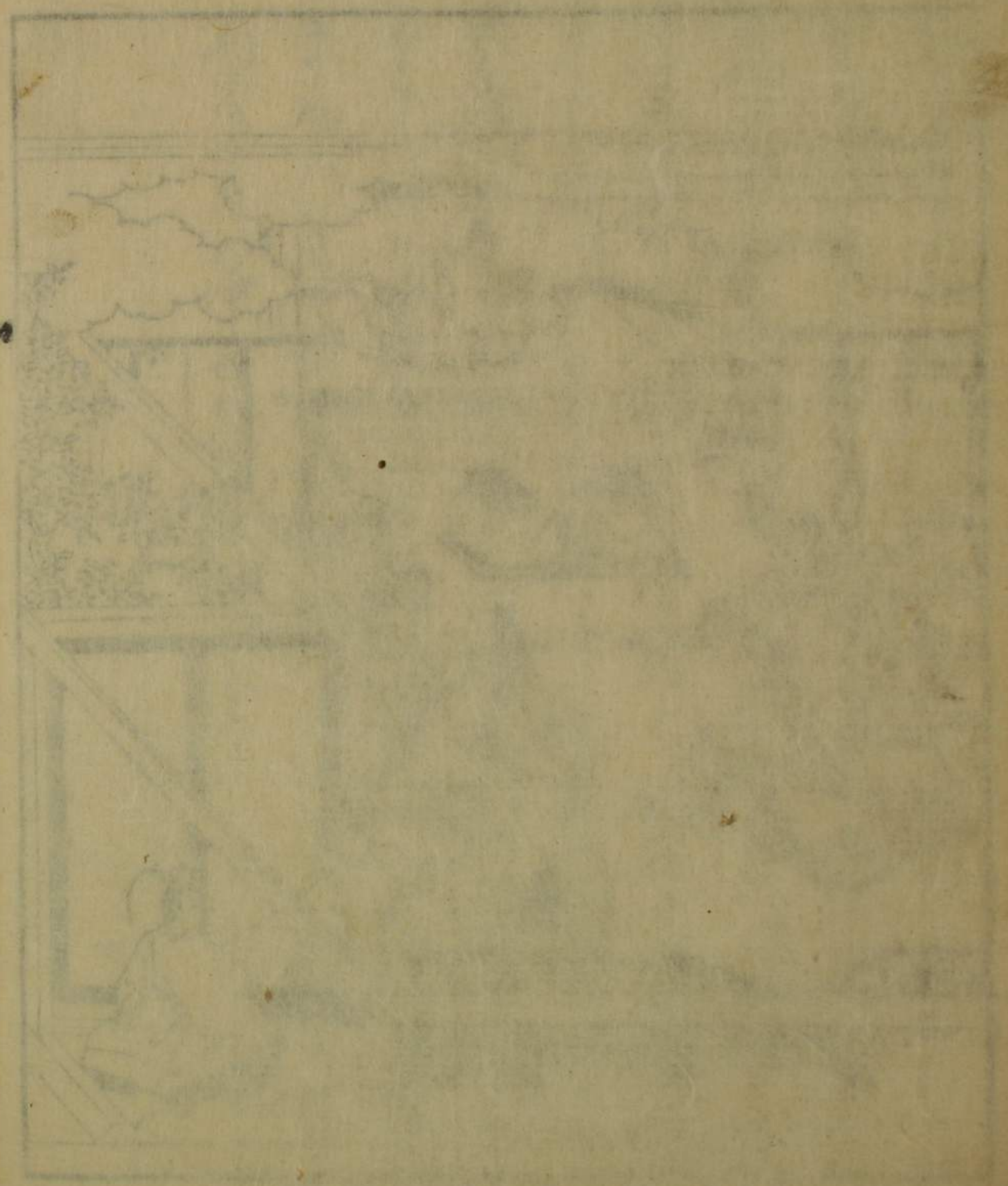
あまきくさくさくさくさくあが

あまきくさくさくさくさくあが

あまきくさくさくさくさくあが

あまきくさくさくさくさくあが

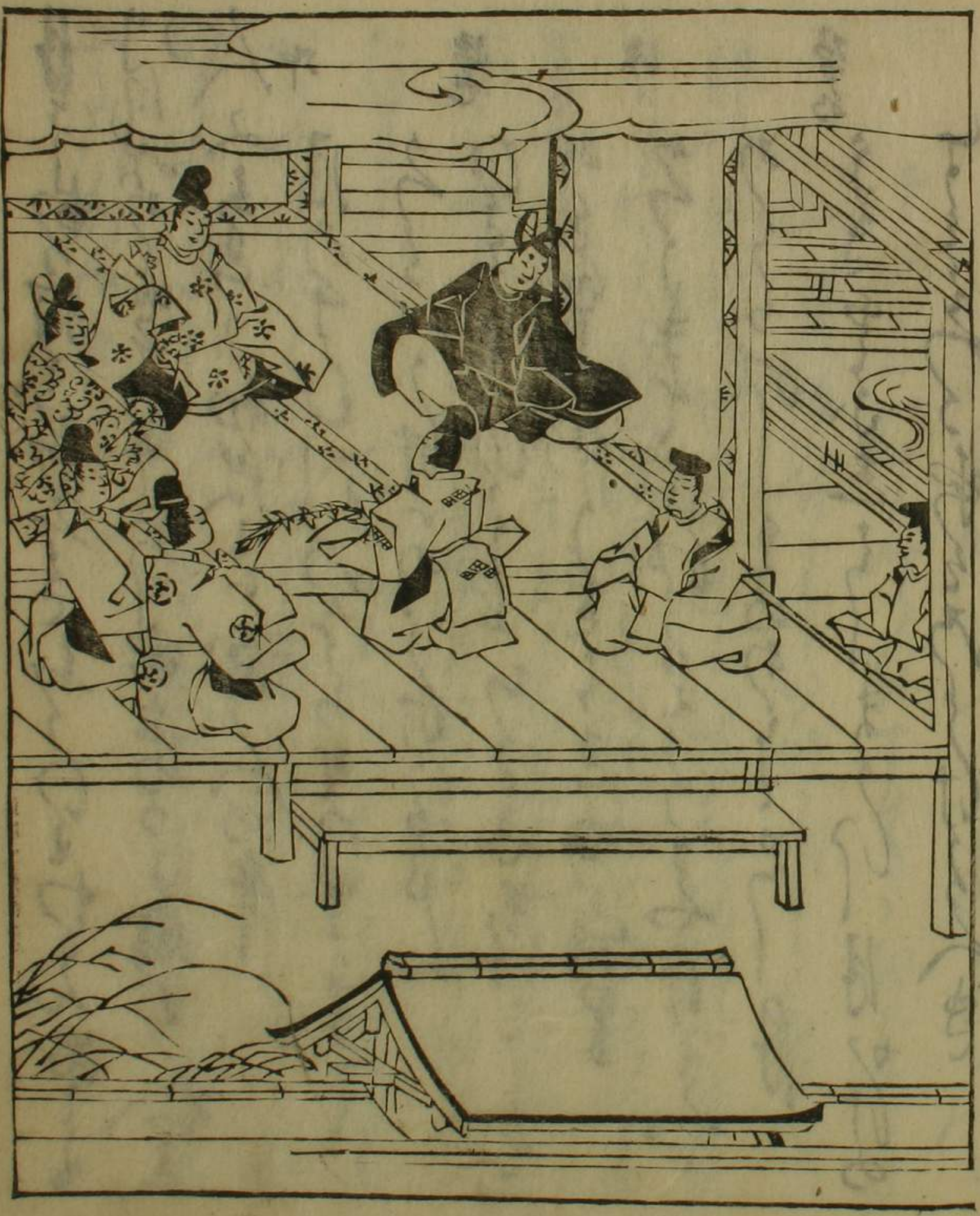
招風
うすき
わさか
なとめ



Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense, cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense, cursive writing. Includes several small annotations in Arabic script interspersed within the main text.

源江寺にわさせ行ひすまの十めのしんかの日
 おいなる金さき事さあかきさきも琴の歌のあはれ
 源
 りさるるしんかあはれあはれあはれあはれ
 しんかあはれあはれあはれあはれあはれ
 ね
 りさるるしんかあはれあはれあはれあはれ
 ねのひのまはねをさるる
 源江寺にわさせ行ひすまの十めのしんかの日
 おいなる金さき事さあかきさきも琴の歌のあはれ
 源
 りさるるしんかあはれあはれあはれあはれ
 しんかあはれあはれあはれあはれあはれ
 ね
 りさるるしんかあはれあはれあはれあはれ
 ねのひのまはねをさるる



Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. The script is dense and cursive, characteristic of classical Arabic calligraphy. There are some faint markings and what appears to be a small signature or mark at the top right of the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing from the previous page. It consists of about 12 lines of dense, cursive handwriting. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

薄雲
源亦亦
云

Handwritten text in a cursive script, possibly a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

あつたてのうらみはなほ
あつたてのうらみはなほ
あつたてのうらみはなほ
あつたてのうらみはなほ

し女 源本二のうらみ

あつたてのうらみはなほ
あつたてのうらみはなほ
あつたてのうらみはなほ
あつたてのうらみはなほ

あつたてのうらみはなほ
あつたてのうらみはなほ
あつたてのうらみはなほ
あつたてのうらみはなほ

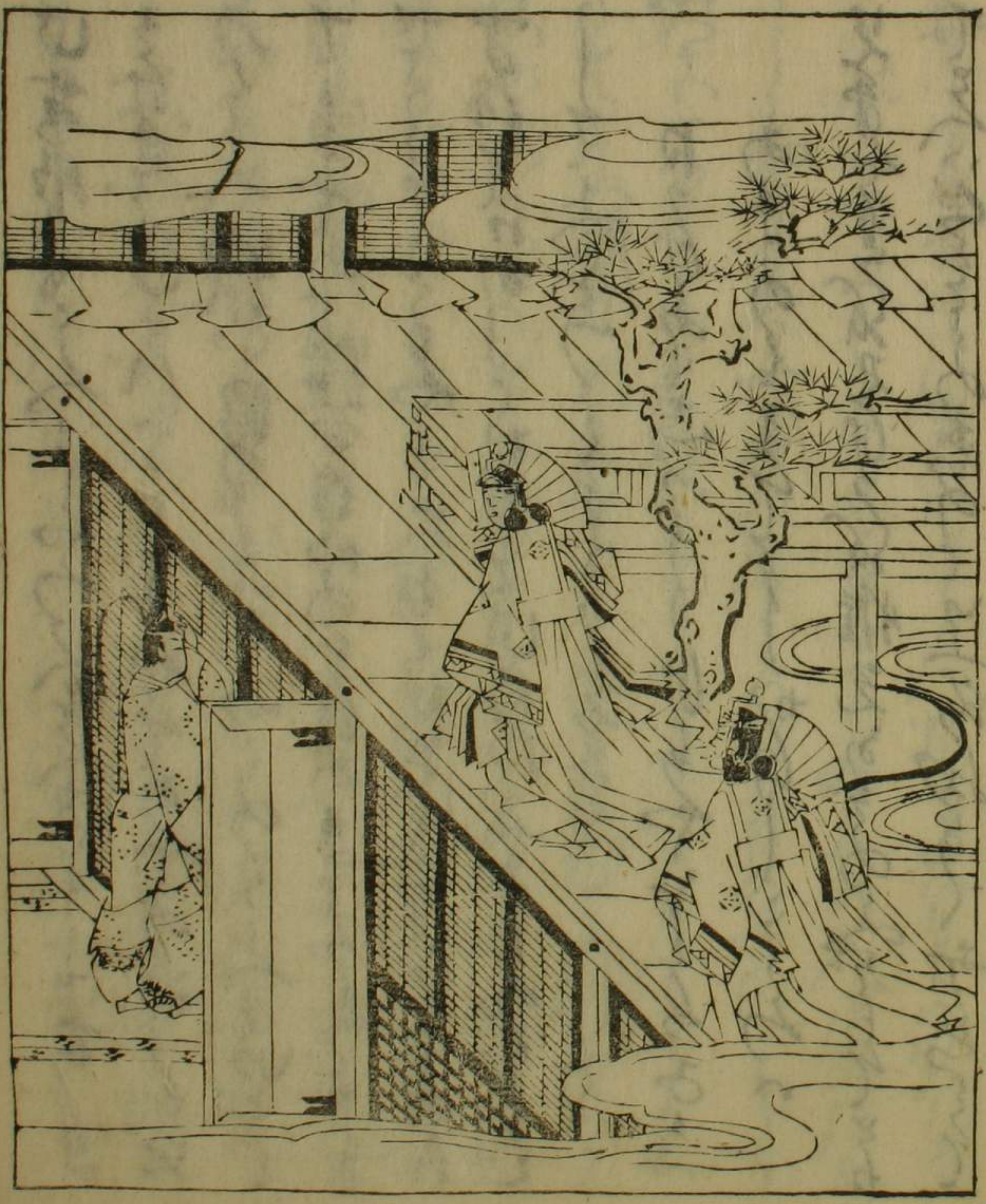
あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心



原

うくのせはしるるさきにむい

しりし一花乃しけをわらわ

心

ぬきまぬくましくつるすすま

まこつけくくくくすのし

胸のまよきふんせけくくけまよせぬほのか

いしをよきはるくあせ

うはるくこれゆきく

冷

くくのまのむくくくくく

きん美琴琴曲のながくくくくく

琴のあやまがくくあくくあまのくくくく

人こよしつあそよまをまへくくく

くくのまのむくくくくくく

えくくくくくくくくくく

大のくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

或るまのくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

一



